

金大中氏に自由を！



▼金大中氏は民主と統一を願う愛国人士▲

軍事裁判における弁論でも明らかのように、金大中氏が、韓国の民主化と祖国統一を願い、その阻害物である軍事独裁を排すべく闘つてきただけである。ところが、まだ記憶に新しい「拉致事件」が、金大中氏が七一年大統領選で祖国の平和統一を大胆に公約に掲げ、不正選挙が横行するなかで

この控訴審はわずか七日間、六開廷で結審となりスピーデ審理のうえ、被告側の申請した証人は一人も採用されず、被告の最終陳述も認められないという不公正な裁判であった。第一審判決において、わずか一ヵ月余りの審理、起訴事実のねつ造や拷問による自白の強制など、ありとあらゆる手段を用いて、金大中氏の抹殺の

▼金大中氏抹殺の暗黒裁判▲

舞台づくりが行なわれたこと、そして今回の第二審の過程と合わせ、ともかくもそこにあるのは、金大中氏をなんとしても殺したいという魂胆だけである。また最終審が大法院（日本の最高裁判にあたる）での書類審査のみであることを考えれば、これから起ころうであろう事態に、樂観を許す余地はない。



みなさん！

国家保安法違反、内乱陰謀罪等に問われていた金大中氏らに対する控訴審は十一月三日、第一審に続いて控訴棄却・死刑判決を金大中氏に言い渡した。また、十二月五日にも大法院において死刑判決が下される恐れがあり、極めて金氏は危機的な状況におかれている。

日本では、「金大中氏に自由を！」という声が各界各層で高まり、今や全国民的広がりをもじめている。しかし一方では、金大中氏減刑をほのめかす世論工作が一部の親韓派によつて行われ、高まる救出の世論に水をかけ、その鎮静化がはかられている。

全斗煥が軍事ファシストである限り、自らすんで金大中氏の命を助けることはありえない。金大中氏の自由を取りもどす唯一の力は、世界の心ある人々の世論の声である。とりわけ日本国民の果すべき役割はきわめて大きい。今、金大中氏救出の国民運動を強力におしすすめよう！

号外

1980.11.27

発行 立志社

〒143 東京都大田区大森北
1-16-8 大森朝日ビル
☎ 03-766-4179(代)

郵便振替
東京 0-70702
銀行振込口座
平和相互銀行大森支店
0925356

毎月1日、15日発行
定期購読を！
24回(1年)￥共3600円
(密封￥共4000円)

る巨大な波に危機感を深めた軍部・維新残党の中から、全斗煥が実権を握る過程で実行に移したものである。

このように、朴正熙・全斗煥が朝鮮民族の悲願に敵対し、外部勢力の支持によってのみ成立している軍事独裁者だからこそ、金大中氏の言論と行動、それへの民衆の広範な支持をおそれ、憎み、「共産主義者」「北のスパイ」というレッテルで抹殺しようとしたのである。

(裏面へ続)

12月5日にも「死刑判決」か！ 今こそ運動を一

▼金大中氏救出の力強い国民運動を！▲

全斗煥は現在、「第二の維新憲法」下で一層軍事独裁を強め、反対派、民主人士、学生への徹底した弾圧を開始し、金大中氏にその標準をしぶつてきている。そしてアメリカ大統領選におけるレーガンの勝利と、情勢は決して樂観できない。

一方、控訴棄却の報に接して日本政府・外務省は、韓国側に「重大な関心」と「深い憂慮」を伝えた。しかし、第一審において死刑判決が金大中氏の海外での言動を問わないとした政治決着の了解事項に抵触しないとするこじつけの「苦労」だけは回避するため、政治決着そのものを反故にしようという動きが外務官僚の主導の下、公然と行われている。

外務省の木内アジア局長は十月十六日の参議院外務委員会で、韓国側が政治決着の了解事項を守らない例外規定として「政治決着以降に反国家的活動をした場合はこの限りではない」とする「ただし書き」があり、これに抵触すれば、日本滞在中の金大中氏の活動の責任が問われてもやむを得ないとする新たな見解を示した。第一審開始に先立って示されたこの「解釈」は、口裏を合わせた日韓両政府の合作の産物といふ疑いが濃厚である。

日本政府のこのような態度は、政治決着を反故にし、金大中裁判を韓国の国内問題にするこ

とで自らの責任をのがれ、金大中氏らの抹殺に手をかしていることに外ならない。この裏に、福田元首相の日韓ロビーストの動きがあることともまた明らかである。

しかし、漠大な軍事費を使い、北との緊張をあおっているファッショ軍事独裁政権を、日本政府が支持することは、政府の言う「国益」も反するのではないのか。

南北の緊張緩和・朝鮮半島の安定と平和、これが必要な条件である韓国の民主化ということは、アジアの平和と安全を守るという点からも、日本の国益であり、日本国民のためにあり、日本国民の熱望であることは、はつきりさせておかなければならぬ。これはまた金大中氏に対する熱烈な支持に見られるよう、韓国国民の願いでもある。金大中氏は韓国の民主化、朝鮮の平和・統一のためには、なくてはならない人物である。

朝鮮とアジアの平和を守り、韓国の民主化、朝鮮の自主的平和統一を支持する立場から、金大中氏を殺させるな！金大中氏に自由を！を合言葉に、署名運動、集会、デモ、ストライキ等全ゆる手段を駆使して、金氏救出の世論を高めよう！日本政府に全斗煥へのテコ入れをやめさせ、政治決着の見直し、金大中氏の原状回復をはかるよう強く要求していこう！

★金大中氏を殺させるな！

金大中氏に自由を！

★日本政府は全斗煥へのテコ入れをやめよ！

「政治決着」を見直し、金大中氏の原状回復をはかれ！

★朝鮮の自主的平和統一支持！

アジア・朝鮮の緊張緩和・平和のために、日本政府は対朝鮮政策を転換せよ！

★思想・信条・立場の違いを越えて、今こそ金大中氏救出の力強い国民運動を！

反霸権民主連合を
めざす国民政治新聞

新 生

を読もう！

内容一社説「金大中氏に自由を！」
な時事経団連訪韓、全斗煥に経済テコ入れ
カンボジア救援センター第二次派遣団に聞く
国際欄韓国で次々と学生決起

毎月一日・一五日発行
二四回（一年）下共三六〇〇円

（密封下共四〇〇〇円）